

農村回帰 - 棚田に学び、住み、廻る -

406716 嶋津 将徳



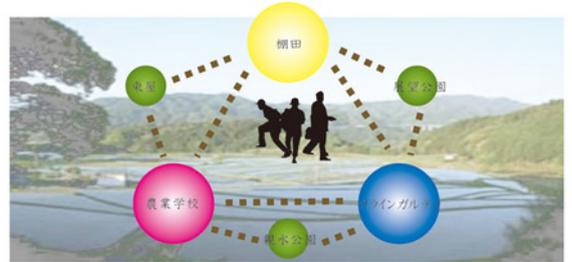
**計画敷地**  
 三重県志摩市 坂本の棚田（日本棚田百選）都市計画区域外  
**アクセス**  
 東名阪自動車道・鈴鹿または志摩ICより車で30分  
**現状**  
 現在棚田は23ha、440枚（勾配10分以下）。平成11年7月に日本棚田百選に選ばれ、翌年に棚田保存会がつけられた。坂本の棚田は鈴鹿山脈のなだらかな斜面を石積みの棚田が広がり、周辺の山林と調和して棚田特有の四季折々の景観を作り出している。



**問題提起**

田舎から都会に出た人が再び田舎に戻る、都会での生活に慣れた人が田舎に移住したい人が進んでいる。少し前までは考えられなかったことであるが、今では田舎暮らしはトレンドである。しかし、現状としては簡単に田舎暮らしを実現できるわけではない。仕事や子供の教育、医療など田舎に移住するには何らかの問題は種々である。それらの問題の一つの解答として最近では週末農業という考えがある。週末に農地を借りるなどして都会の住民が自分たちのライフスタイルに合わせて田舎において暮らしに時間を使うというものである。

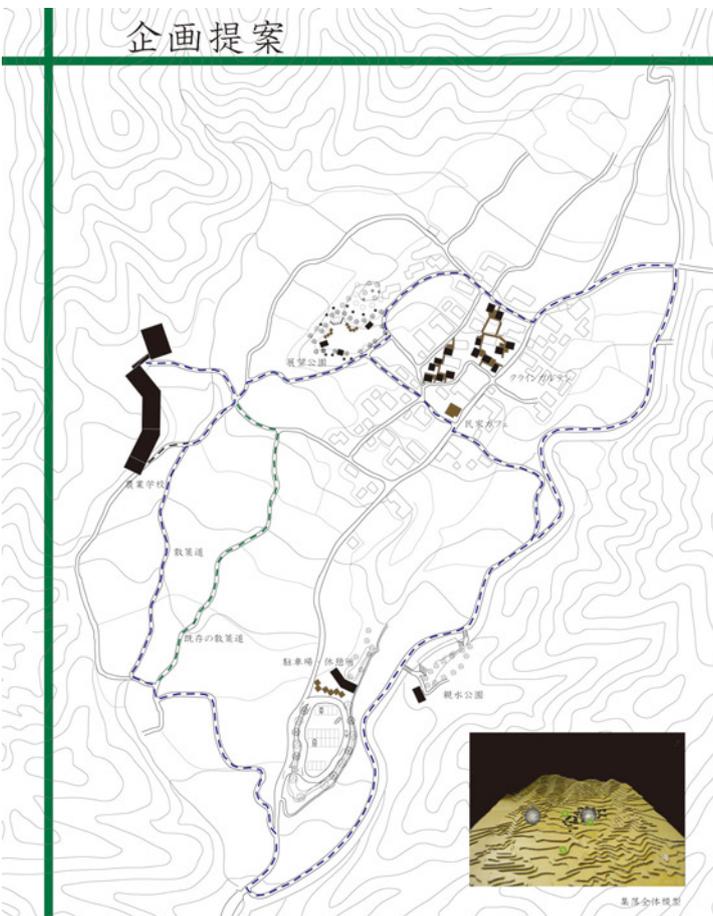
現在の坂本の棚田は棚田百選に選ばれているだけに、農業従事者や棚田保存会、集落全体の高齢化により、田舎が荒れ、空家や耕作放棄地が目につく。このままでは先人たちが愛で続けてきた棚田の存続すら危うくなっていく恐れがある。まずは坂本の棚田を知ってもらうことが第一であると考え、その解決策の一つとして週末農業を提案する。週末農業をすれば田舎で農業を教える場と、居住スペースが必要になる。坂本集落の現状と週末農業の需要を考え、農業学校・クラインガルテン・数寄道等の整備を提案する。かつて先人たちが開き出した棚田という日本の原風景を、建築と自然のコラボレーションによって、新たな美しい風景を築き出すことを目指す。



農村回帰 - 棚田に学び、住み、廻る - NO.1

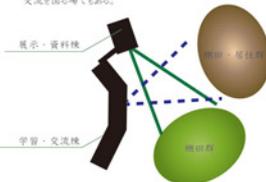
企画提案

406716 嶋津 将徳



**企画1 農業学校 学ぶ**

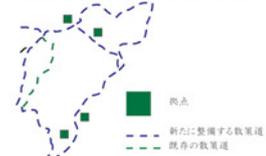
棚田という大型機械の入れない田舎での自然農法・手作業農法を肌で感じよう。施設、農業をこれから体験する人だけでなく、現在農業を本業としている人向けにも体験プログラムを用意して、地元住民が先人から受け継いだ棚田における技術と知恵を提供する場。農業学校としての機能だけでなく、現在ある坂本生活改善センターとしての機能を取り入れ集落、棚田の歴史を学ぶなど都市住民との交流を図る場でもある。



農業学校は坂本農村センターの機能に併せて、坂本の棚田の展示室・資料室を有した展示・資料棟が寄り添っている。先人たちが残した知恵、守り続けてきた棚田の歴史などを誰でも閲覧することができる施設となっている。展示・資料等は集落南側の棚田群を臨み、学習・交流等は地味奥側の棚田と住居群を臨める様子を配置している。

**企画2 数寄道 廻る**

平成14年から平成16年にかけて集落内の数寄道が一部整備され、集落の入り口に駐車場と公衆トイレが設置された。整備されたことにより観光客が増えたが、集落全体としてはほんの一部である。現在集落全体の一部である数寄道を集落全体に併走し、休憩所などの拠点を繋ぎ坂本の棚田全体を農村公園として整備していく。



拠点の内容としては、集落入口の駐車場に隣接する東屋、数寄道にある宮川の水公園、クラインガルテン付近の空き家を利用した民家カフェ、現在坂本生活改善センターがある敷地に観光公園をそれぞれ配置した。これらの拠点と農業学校、クラインガルテンをつなぐのが数寄道であり、施設から施設へ移動する際は棚田見、数寄道を通ることになり、自然と棚田を意識させることを目指した。

**企画3 クラインガルテン 住む**

クラインガルテンはドイツ語で「小さな庭」という意味があり、基本的に100坪と称される居住小屋が1つの区画を借り、滞在しながら農業を体験できるところの総称。主にセカンドライフで農業、田舎暮らしをしたい人々を対象に農村での暮らしを体験してもらう施設。坂本の棚田の居住群には現在空き家が多く、その空き家をクラインガルテンとして新しく生まれ変わらせることで、クラインガルテンと地元住民の住居が隣り合うことになる。とどろく坂本地区の強いコミュニティとの相互交流を図る。地元住民は農業のことだけでなく、なにかあったときに必要に応じて対応してくれるという役割を持つ。



日本におけるクラインガルテンの傾向  
 日本においてクラインガルテンは市民農園、または準市民農園として普及している。  
 年会費は30万～70万円で、冬をのぞき1月に5日程度耕れることが条件となっている。  
 基本的には年単位で借りることができ、最長で5～10年借りることができる。



農村回帰 - 棚田に学び、住み、廻る - NO.2

農業学校

406716 嶋津 将徳



企画コンセプト

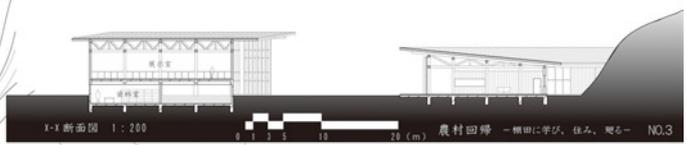
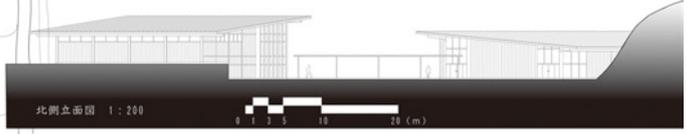
数蔵の光にある建築

建築の中に入っても数蔵道の延長線上であるような感覚を有する空間を目指し、数蔵道・等高線・棚田に沿うような配置をした。数蔵道を取り込むように建築が存在し、建築を取り込むように数蔵道が存在しており、建築が数蔵道の一部となっている。建築を離れると同時に、自然に数蔵道につながるようになっている。

数蔵道の光

農業学校には数蔵が3つ存在する。

- 1つ目は農業学校の外部空間としての数蔵。
  - 2つ目は建築内部の数蔵道から数蔵道につながる数蔵。
  - 3つ目は建築内部から展望デッキにつながる数蔵。
- この3つの数蔵により、数蔵道との繋がりを持たせ、農業学校、クラインガルテン、集落、棚田を一体的に演出することができる。

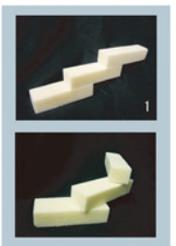


造形原理

1. 箱型のボリュームを地形の高低差に合わせて三段積み、棚田をイメージさせる造形をつくる。
2. 三段の箱型のボリュームを等高線に合わせて角度をつけていく。
3. 地形に合うような造形、自然と一体化するような造形となる。

内部空間コンセプト

1. 必要諸室ごとに必要面積ごとの木構造のコの字型の空間を配置する。
2. コの字型の空間を上から覆うように木組みによる屋根が架かる。
3. 室内においても数蔵道の延長であるような空間を目指した。



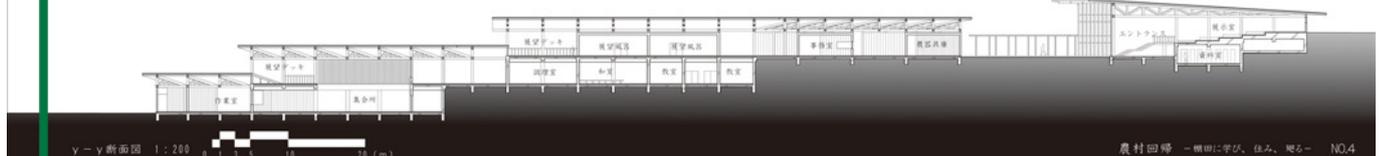
造形原理イメージ



内部空間イメージ

面積表

学習・交流棟	調理室	120㎡	展示・資料棟	
教室	集合所	180㎡	展示室	400㎡
農具庫	作業室	120㎡	資料室	100㎡
ロビー		150㎡	エントランス	200㎡
事務室		82.5㎡		
展望デッキ		260㎡		
延べ床面積 3395㎡				



## 散策道



**散策道を彩る**  
 現在一部整備されている散策道を集落全体へと延長し、集落全体を農村公園としての性質を新たに持たせる。  
 現在の散策道は集落からの観光客等に非常に活用されており、有効活用されている。しかし、現在の散策道は集落の入口から集落の中程までの一部分しか整備は不十分であるといえる。  
 また、散策道を歩行、道を彩るものとして休憩所、展望台、観水公園を計画する。

**散策道**  
 棚田から棚田に水が形を変えて水路を流れていく様子をイメージし、散策道を提案する。棚田と水を繋ぐ水路として散策道を統一し、集落全体を廻ることで集落に親いをもたらし、  
 棚田として建築物が存在し、散策道の流れと並びに人の流れも建築物に誘う。

**空家**  


**観水公園**  


**現状の散策道**  

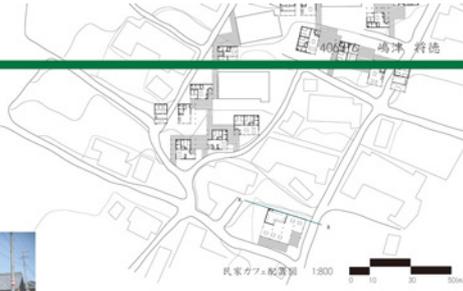

**散策道イメージバス**  


**民家カフェ内観バス**  


**民家カフェ**  
 クラインガルテンの区画村道の空家を改修する。地味住民による週末ワークショップ方式を採用し、地元住民がクラインガルテン利用者や、観光客に自慢の手料理をふるまう。

**展望台**  
 現在坂本生活改善センター、坂本神社のある敷地。坂本改善センターの機能が農業学校に移ったため市民公園として散策道を彩る。展望台からの眺望は四季折々の棚田を感じることができる。展望台からの眺望は四季折々の棚田を感じることができる。

**観水公園**  
 坂本の集落には空川が南北に流れており、その流れは非常に速く、坂本の集落の重要な資源であるといえる。観水公園の展望台はクラインガルテンの造形形式に合わせている。



**民家カフェ配置図** 1800

**民家カフェ立面図** 1200

**X-X断面図** 1200

**展望公園**

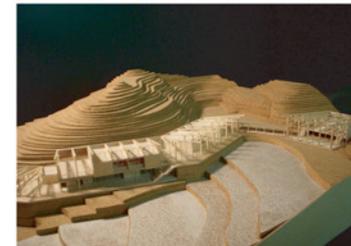
**展望公園配置図** 1800

**展望公園立面図** 1200

**展望公園断面図** 1200

農村回帰～棚田に学び、住み、廻る～ NO.5

## 統一コンセプト



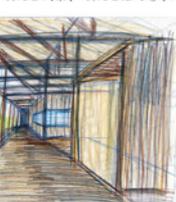
**構造計画**  
 今回の計画では、全体の建築の構造を統一した。散策道を媒体として各建築物が離れているため、全体としての統一感を出し、それぞれの繋がりを演出する意味合いもある。  
 農業学校、クラインガルテン、散策道を彩るものは基本的に同じ構造形式としており、どの建築も構造をみせるような形態としている。そのため、それぞれの建築空間を体験することで、より一層の統一感、繋がりを感ずることができる。

**統一コンセプト**  
 棚田から棚田に水が形を変えて水路を流れていく様子をイメージしてクラインガルテン、農業学校を設計した。農業学校もクラインガルテンも、それぞれに造形原理はあるが、基本コンセプトは同一である。  
 棚田を建築物、形を変えて水を入、水が流れる水路を移行空間として捉え、建築から流れた出し水が散策道という名の水路を通り、あるところでは留まり、またあるところでは学び、農作業を行い、集落全体を廻る。先人たちが築き上げてきた日本の原風景である棚田に、建築が新たな風景、新たな活力を与える。

**農業学校・展示室**  
 展示室は坂本の棚田の歴史や写真、絵画などの棚田に関するものを展示する場所である。展示室の内部は棚田を思わせるような段々になっており、棚田にある部分に展示を行う。  
 展示室の向かいには日本棚田百選の景観が待ち構えており、展示室の棚田との対比になっている。また、棚田の写配と屋根写配が逆向きになっており、棚田に向ってバース6が外への視線を強調する。

**クラインガルテン・共用空間**  
 クラインガルテンのラウベの軒が共用空間を覆うように突き出しており、共用空間であるがラウベに一体となっている感覚を与える。  
 クラインガルテンの共用通路はそれぞれが建物や共用空間に突き当たるようになっており、動線を留め、人々との交流を図るという意図がある。



**農業学校内観バス**  


**共用空間バス**  


# クラインガルテン

406716 嶋津 将徳



面積表

南側エリア		北側エリア	
37.25m <sup>2</sup>	1棟	64.8m <sup>2</sup>	2棟
42.12m <sup>2</sup>	2棟	61.50m <sup>2</sup>	1棟
48.5m <sup>2</sup>	1棟	48.6m <sup>2</sup>	1棟
61.50m <sup>2</sup>	1棟	35.64m <sup>2</sup>	1棟
56.7m <sup>2</sup>	1棟	51.84m <sup>2</sup>	1棟
合計	288.7m <sup>2</sup>	合計	406.62m <sup>2</sup>
民家カフェ	136.8m <sup>2</sup>	合計	832.12m <sup>2</sup>

## 繋がるクラインガルテン

従来のクラインガルテンといふのは奇麗に区画された土地に畑とクワを配置していることが多く、週末農業に来る人同士の交流が希薄になることも多々ある。

「小さな庭」

今回の計画ではクラインガルテンの「小さな庭」である畑を「交流の庭」としてオープンデッキ、通路に置き換えて利用者相互の交流を図った。利用者は自分のクワへ向かい、区域内の通路を通らざるを得ず必然的に他の利用者、地元住民と顔を合わせる機会が増える。

繋がる軒

クワへの軒が共用通路を覆うように突き出る棚所があり、通路と建物の一体感を表現している。



## 造形コンセプト

1. 民家と空き家が混在する現在の集落の様子
2. 民家に寄り添うように、空き家のあった部分に新しくクラインガルテンを作る。
3. 共用通路、共用デッキを用いてクラインガルテン民家をつなげる。



クラインガルテン 基準階平面図 1:200

南エリア南側立面 1:200

X-X'断面 1:200

北エリア南側立面 1:200

X'-X''断面 1:200

西側立面図 1:200

Y-Y断面図 1:200

